

# いながわ 特派員報告



皆さんは本を読んでいますか。最近、図書館や書店に、あらゆるジャンルの本が並んでいます。そんな中、町内の3組の人達が本や紙芝居を作られました。そのうち2冊の本はすでに出版され、1冊の紙芝居も本になることが決まりました。今回はそれらの作者を訪ね、本に込められた思いを伺いました。

## 町内で誕生！3冊の本

子どもの頃、夢中になって読んだ本がありました。そういう本を、自分も書くことができたのを感じています。近頃、そんな夢を叶えようと、出版社に自ら原稿を持ち込んだり、出版社主催のコンテストに応募するなど、素人にも本を出すチャンスが増えています。そして、町内でも3組の人達が本を作りました。昨年出

版された、現在、つつじが丘小学校4年生の大田亜純ちゃん(つづじが丘)が書いた絵本「お茶をきらうすいとう」、今年2月に出版された牛島清春さん・富子さん夫妻が植物調査の結果をまとめた「猪名川町の植物誌」、今年の夏に本として出版する

ことが決まった、白金小学校6年生の担任、岡田睦美先生が書いた紙芝居「リンガヨおばあさんの足」。ジャンルは違いますが、それぞれ作者の思いが込められた素晴らしい本です。

# 本を出版

この紙芝居は、今から約60年前の世界大戦中にフィンランド・イフガオ州で起きた、岡田先生が書いたものです。

## リンガヨおばあさんの足



リンガヨおばあさんの足は、猿みたいな足。どうしてそうなったの？日本とアメリカの戦争に巻き込まれたバハオ村を襲う悲劇と、前向きに強く生きるおばあさんの姿を描いた感動的なお話。(絵は、南武庫之荘中学校の久保田泉先生)

子ども達に知ってもらえることを期待しています」といきいき

## 世界平和を願って

### 白金小学校 岡田睦美先生

国際理解教育に力を入れておられる岡田先生は、昨年の夏休みに、JICA(国際協力事業団)主催の教師海外研修に参加しました。訪れたフィリピンで現地のお年寄りに戦争の話や聞き、紙芝居を作ることになりました。

と語られました。紙芝居を見た6年生の児童からは「日本が戦争中にひどいことをしたと知り、申し訳ないと思った」、「恨みからは何生まれない」と言っており、日本を恨んでいないリンガヨおばあさんはすごいと思った」と

6年生の児童達に紙芝居を読み聞かせる岡田先生

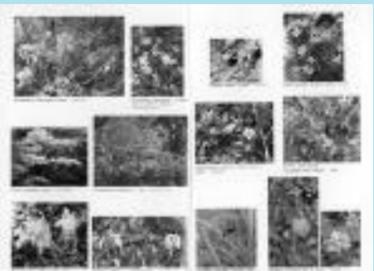


### 岡田睦美先生

いう声が聞かれました。また、児童達は紙芝居をききかけに、イフガオの人達が素手で植林作業していることを知り、何か役に立てないかと話し合った結果、軍手を集めて送ることになりました。軍手には心を込めた応援の絵やメッセージ

を描きます。その計画は「ハンド・イン・ハンドキャンペーン」として全校児童に呼びかけられ、学校中に広がっています。ひとつの紙芝居が、児童達の国際協力やボランティアへつながることを知り、とても感動しました。

## 猪名川町の植物誌



37ページにわたり、カラー写真をふんだんに使っています。

この本は、猪名川町の植物の生態、絶滅危惧植物、植物目録など、牛島さんご夫妻が調査した結果を250ページにわたり紹介したものです。

猪名川町の豊かな自然にひかれて26年前に引

## 研究の成果を本に

### 牛島 清春さん・富子さん(伏見台)

町内の植物調査をするように、二人は、カメラを片手に町内の野山を歩き、そこに自生する植物をつぶさに観察していきました。同じ道を通っても、また新しい発見がありました。お二人は、カメラを片手に町内の野山を歩き、そこに自生する植物をつぶさに観察していきました。同じ道を通っても、また新しい発見

つ越してこられたお二人は、山歩きや植物の観察など同じ趣味を一緒に楽しんでこられました。そして、兵庫県立人と自然の博物館で植物に関する講義を受けたり、書物で勉強したりするうちに興味も深まってきた、テーマを持って町内の植物調査をするように

いつも一緒に活動されるお二人



## お話を作ったら本になったよ

大田 亜純ちゃん(つづじが丘)



笑顔の亜純ちゃん。挿絵の女の子とそっくりでしょ。

## お茶をきらうすいとう



水筒が女の子にあげたものは、虹色に光る石。女の子が水筒にあげたものは、ふかふかベットと靴と・・・。

このお話を作ったのは、亜純ちゃん(つづじが丘)が小学2年生の夏休みの時。以前、国語の授業でお話を作ったことがあり、おもしろかったので、また作ったそうです。亜純ちゃんが牛乳を大嫌いなことから、主人公はお茶を入られることが嫌いな水筒。このちよつと変わった水筒が女の子と仲良くなる楽しいお話です。そして、できあがったお話に中川かおるさんが挿絵を描いて、絵本のコンクールに応募すると、出版社の目にとまり本にすることにしました。

挿絵を描いた大阪府在住の中川さんは、猪名川町出身で、当時舞台美術の仕事をされておりました。本を読むのが大好きな亜純ちゃんですが、今は算数がおもしろいとか。また、楽しいお話を作ってほしいですね。

## 後編集

自分の書いたものが本になるなんて、すてきなことです。本を出版されるまでに、皆さんには、いろいろな出会いがあったようです。これからは、どんな人が本を手にするのか、楽しみですね。

どの作品もおもしろく、また興味深く読ませていただきました。ぜひ、多くの人に読んでいただきたいと思っております。すでに出版されている2冊の本は、町立図書館で借りることができま

### 【いながわ特派員】

